

第17号
平成29年9月



山梨県立山梨高等学校同窓会
同窓会だより



山梨高校創立100周年記念事業の成功を！

～記念式典はこの10月7日(土)午前中です～

同窓会長 吉原 五鈴子

いよいよ本校創立100周年記念事業完遂に向けて、実行委員会の一端を担う同窓会としての務めが達成できましたことを先ずはご報告申し上げます。

同窓生各位からの協賛金、自治体はじめ恩師、PTA、協賛各企業等々実に多くの方々からのご芳志を頂き、目標としました同窓会館の改修はじめ記念誌発行、記念式典挙行等に関わる予算の目標額を達成する事が出来ましたことを心から感謝申し上げます。

母校山梨高校の限りない発展と在校生の果敢な活動へのエールをこめてお寄せ下さいました多額のご寄付は、必ずや有効に生かさせて頂きます。本当にありがとうございました。

また、この4月30日に開催致しました同窓会総会、懇親会には多数の方々のご出席を頂き温かいご支援の中で、新役員の承認やら本年度事業等のご承認を頂きました。総会後の懇親会には、おおよそ200名の方々にご参加を頂き、依田先生のフルート演奏など素晴らしい時を過ごさせて頂きました。

これも偏に今年度幹事をお務め頂きました細野千代美実行委員長はじめ実行委員様方の強力なご活動あってのことございました。本年度は会員券の販売のみにての業務執行でしたから、財政的にも随分と切り詰められ、総額の半分以上を学校当局、同窓会本会、そして100周年記念事業にご寄付を頂きました。誠にありがとうございました。

今回同窓会だより第17号を発行するにあたりましては、本年度実行委員のお仲間の一人であり、全国的にご活躍の萩原なつ子様からのご寄稿も頂くことができました。また、在校生からは日頃の大活躍の一端もご報告頂きました。こうした活躍あっての高校生に更なる支援を贈るべく、私たち同窓生の一層のご理解ご支援を心からお願い申し上げ、山梨高校の限りない発展を祈念し挨拶いたします。

本校初の修学旅行

校長 三森 克人

校長室の隣にある小会議室には、本校に関わる史料を納めているロッカーがあります。その中に、磯千鳥という冊子を見つけました。

校友会(通常会員／在校生と卒業生、特別会員／職員 一校友会規則より一 恐らく現在の生徒会+同窓会に近い組織であろうと思われます)の会誌として大正9年3月に発行されたこの創刊号は、論文や文芸、各種報告などが掲載されています。

その中に修学旅行に関する紀行文があります。13名がリレー形式で8頁にわたって綴っている文章は、本校(当時は東山梨郡立実科高等女学校)初の修学旅行の様子を細かく伝えてくれています。

大正8年10月7日に3年生71名は下日部駅(今山梨市駅)を出発し、江ノ島、鎌倉(大仏、鶴ヶ岡八幡宮、由比ヶ浜など)、横浜(横浜港、客船内観覧)を経て東京へ。皇居・東京駅周辺(靖国神社、二重橋、桜田門、日比谷公園、三越呉服店など)、上野(公園と動物園)、浅草(浅草寺、花やしき)などを巡る4泊5日の記録は「忘れ得ざるはこの旅行なり。ああ楽しかりしはこの旅行よ」と結ばれています。

翻って98年後、現在の山梨県立高校の修学旅行は沖縄方面がほとんどです。本校も以前から沖縄を行っています。本年度も琉球・沖縄の歴史、文化、自然、そして平和について、事前にしっかりと学習を積み重ねた3泊4日の旅行を計画しています。

時代と共に、修学旅行に求められる意義も少しずつ変化していますが、十代という感受性の豊かな時期に、非日常の環境を友と一緒に過ごし、学ぶ時間はとても貴重な体験であると感じています。皆様の修学旅行はいかがでしたでしょうか?



平成29年度山梨高等学校同窓会総会・懇親会

仲間に感謝して

平成29年度第100回山梨高校同窓会総会実行委員長 細野 千代美

4月30日、新緑まばゆい快晴の中、同窓生多数の方々をお迎えし、平成29年度同窓会総会・懇親会が開催されました。

今年度は、S49年度・H6年度の卒業生が実行委員となり、昨年10月から各委員会で鋭意取り組んでまいりました。

本校は、本年10月に創立100周年記念事業を控えているため「少しでも多くのご協力ができるように」と、会議費等の捻出に工夫を重ねながらのスタートがありました。

当日は、出席される先輩方に茶道部による野点で和やかな一時を楽しんで頂き、総会も予定通り進められました。

総会第2部は、在校生による発表でした。S49年度卒のAさんとH6年度卒のB君が司会者となり「お帰りなさい」のあいさつから始まった合唱部のコーラス、続いて吹奏楽部の意の合った演奏やリズムに乗った鮮やかな演技などは、いずれも若さ溢れるものでした。この様な後輩たちの演技に、参会者はそれぞれ学生時代を思い起こされたのではないかでしょうか。

懇親会では、恩師依田道彦先生にフルートで「アルルの女」他、全8曲を演奏して頂きました。生演奏を間近で聴く機会に恵まれ、皆十分堪能されたこと思います。

お見送りの際「良かったよ」「お疲れ様でした」など、労いの言葉を掛けて頂いたり「歓談の時間があつた」という声も聞かれ、総会実行委員として安堵した気持ち一杯でした。

実行委員は、その殆どが42年ぶりに再会した仲間でしたが、計画に基づいて一つひとつ遂行していく中でみんなの気持ちが一つにまとまり、結果として素晴らしい時間が共有でき、絆が生まれました。還暦を過ぎてこうした仲間と巡り合えたことは人生の財産となりました。今後も、この絆の重みを大切にしていきたいと思います。

この様に、総会・懇親会が成功裡に開催できましたのは、学校関係者・同窓会役員・支部役員・実行委員の皆様・部活動で多忙の中、体育館での会場準備や後片付けなどを頂いた生徒さん達のご協力に厚く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

尚、総会の残金は、例年に倣って同窓会並びに学校への寄付及び創立100周年記念事業への寄付とさせていただきましたことをご報告いたします。終わりに、山梨高等学校並びに同窓会の益々のご発展と本年10月の100周年記念事業のご成功を心よりお祈り申し上げます。



● 平成29年度同窓会役員紹介

常任顧問 三森 克人	副 会 長 三科 典子	山梨支部 古川めぐみ	牧丘支部 加々美和美	一宮支部 ○向山千枝子	八代支部 ○丹澤 明美
顧 問 丸山 正一	副 会 長 落合 節子	石原奈津子	三富支部 ○日原貴美保	里吉 博子	小島百合香
参 与 佐野知都子	副 会 長 雨宮 道子	藤巻 双美	塙山支部 ○雨宮 節子	風間 久子	甲府支部 ○雨宮登美子
参 与 前嶋宇夕子	副 会 長 雨宮 悅子	雨宮 操	向山ゆき子	御坂支部 ○上野 栄子	山縣 洋子
会 長 吉原五鈴子	副 会 長 村田 恵子	武藤みな子	芳賀 月子	春日居支部 ○中村 博子	保坂 早苗
副 会 長 高橋 文子	監 事 芳賀 月子	内田とも子	石和支部 ○川手 鶴子	三森 恵美	東京支部 ○雨宮 道子
副 会 長 矢崎 圭子	監 事 間瀬 朝子	牧丘支部 ○前嶋 芳美	中村 玲子	飯田 恵子	
副 会 長 遠藤 文子	山梨支部 ○谷沢 道子	佐藤由美子	小鳥居房江	川口 直人	

※○は支部長

※他の支部については検討中です

同窓生の活躍紹介

男女共同参画社会づくりに向け ～私が今取り組んでいること～

立教大学社会学部教授 萩原 なつ子



プロフィール

萩原 なつ子 (ハギワラ ナツコ)

笛吹市石和町出身

S49年度山梨高校卒業

明治学院大学文学部英文学科・同社会学部社会学科卒業

お茶の水女子大学大学院修士課程修了 博士（学術）

立教大学社会学部／大学院 21世紀社会デザイン研究科・教授

内閣府男女共同参画推進連携会議議員など多方面で活躍中

東京都文京区在住

私は長年男女共同参画を推進する仕事にかかわっており、全国各地で講演の機会をいただいている。その際「男女共同参画替え歌」を交えながら、参加者の理解が進むように、わかりやすく話すようにしています。替え歌は自作のものと、岐阜県大垣市在住の友人が「歌って」と提供してくれたもの（傑作揃い）も含めて20曲近くあります。元歌は昭和のにおいがブンブンするヒット曲（特に演歌ですが）ばかりなので若い人には??マークなのが少しばかり難点です。たとえば「高校三年生」を元歌とする「定年3年目」は性別役割分業のもと、稼ぎ仕事一筋の定年を迎えた夫が、仕事や地域活動に出かけようとする妻に対して「どこに行くの?」「俺の飯は?」と聞く。“生活者として自立していない定年3年目の夫の生態”を表現した内容。どこか身に覚えのある歌詞に、50代以上の男女には必ず大うけします。また、家事、育児に協力しない夫に向けられた「帰ってこいよ!」の歌詞、男性の長時間労働問題、ワークライフバランスを考えさせる内容となっており、演歌にもかかわらずFI世代（20代、30代の女性）に受けます。著作権の関係上、歌詞をご紹介できないのが残念です。男性の参加者から「中身は痛烈だけど、歌だから、笑いながらグサッとくる」とコメントをいただいたことがあります。90分一本勝負の講演では、男女を問わず、自分事としてとらえていただけるよう、なんらかの「気づき」を促すよう心掛けていますが、そのルーツとして替え歌以外に「キャッチフレーズ」も有効です。

1999年6月23日に「男女共同参画社会基本法」が公布・施行されたのをきっかけに、毎年6月23日から29日まで、男女共同参画週間が実施されているのをご存知の方も多いと思います。その週間に合わせて毎年キャッチフレーズが募集されますが、私は選考委員としてここ数年かかわっています。女性活躍推進法の完全実施から一年が経過した今年のテーマは「女性も男性も、自らの意思により個性と能力を発揮して活躍できる職場をつくるためのキャッチフレーズ」。今年の最優秀賞に選ばれた作品は「男で○、女で○、共同作業で○」。男女を問わず全ての人にチャンスがあり、活躍ができる社会、多様な働き方・生き方が選択できる社会の実現に向けて、これからも時には歌いながら、活動を行っていきたいと思います。

学校だより・学校ニュース

「百周年、そしてその先へ」



生徒会長 3年4組 渡邊 美優

生徒会長に就任して1年、私にとってこの一年は駆け抜けるように過ぎ去り、試行錯誤し、多くを学んだ期間となりました。山梨高校は今年、創立百周年を迎えます。この百年の歴史の重み、偉大さを感じながら、記念すべき百周年にふさわしい生徒会の姿を追い求めた1年になりました。

そんな1年の中で最も強く印象に残っている生徒会行事は、やはり梨窓祭です。今年は例年より準備期間が短く苦労もありましたが、生徒会本部役員と梨窓祭実行委員の協力と支えがあり、素晴らしい2日間となりました。テーマ「Bloom～今しかない青春を～」通り、人生で1度しかない“青春”的“一瞬”が花のように美しい思い出として個々の心へ咲き乱れたことでしょう。2万8千人の先輩方の“一瞬”的積み重ねが今に繋がっているのだと思うと、身の引き締まる思いでいっぱいになります。

その他、全ての生徒会行事において、先生方や生徒の協力態勢があったからこそ、伝統を守りつつ新たなステージへ向かう行事を執り行うことができたのだと感じています。

まもなく新生徒会長が誕生します。これまで築き上げられてきた伝統を引き継ぎ、さらに発展した学校作りに取り組んでいくことを願っています。百年の歴史に学び、その先へ、新しい気持ちで進んでいてください。

また、同窓会の皆様には日頃から多くのご支援をいただき、ありがとうございます。この地で学び歩まれた先輩方の思いを胸に、これからも生徒一同、勉学に部活動に励んで参ります。今後とも山梨高校と山梨高校をよろしくお願い申し上げます。

「陸上部で見た景色を後輩へ」

私は、高校陸上部に入部してから様々な種目を経験し、その中で三段跳びと円盤投げを選び、勝負をしてきました。

まず、練習を始めてすぐの新人戦で、三段跳び優勝、円盤投げ2位という結果を得て、試合経験を積まないままの関東大会出場となりました。当然のことながら周りの選手に圧倒され何度もできず、悔しさだけが残る大会となりました。その悔しさが、その後の練習に対する思いを大きく変え、多くの大会を経験し、2年生の新人戦では三段跳びで関東7位という戦績を残すことができました。

私が最も印象に残った大会は岩手国体です。県の選考会で、国体標準を最後の跳躍で跳ぶことができた時、他校の先生方や選手までも一緒に喜んでいた姿が目に入り、胸が熱くなりました。国体に向けた練習でも先生や仲間の支えがありました。多くの人の想いを背負っているということ、一人で陸上ができるわけではないということを強く感じることができた大会です。

昨年11月には本校陸上部の大先輩である総体記録保持者と五輪出場者のお二方とお話を伺う機会を頂き、陸上に向かう姿勢を学ばせて頂くと同時に、山梨高校への深い愛情を知ることができました。このことは私の大きな力となっています。また、顧問だった先生には陸上部に誇って頂いた上に国体に出場するまでに育てて頂き、本当に感謝しています。

今後は私が後輩を支え助けていくことで、先生や先輩や仲間の想いを引き継いでいき、私が見させてもらった景色を多くの後輩に見てもらえるよう尽力していきます。



同窓生の方でご活躍している方がおりましたら、事務局までお知らせ下さい。
ご紹介させていただきたいと思います。

「憧れの背中を追って」

放送部 3年1組 齊藤 美奈子



私が放送部に入部したのは2年生の2月末でした。それまで入っていた演劇部との兼部という形でした。なぜ私が引退迫る3年生の直前に入部したのか、その理由は友人にもあきれられるほど単純なものでした。

私は昔から家族の影響で、アニメ、ひいては声優にも興味がありました。元々自分を表現することが好きだったので、高校からは、本格的に声優をめざしました。調べていくうちに私の憧れの声優さんが高校時代に放送部で全国大会に出場していたことを知り、単純に私もやりたいと考えました。

私の最初で最後の大会、それがNHK杯全国高校放送コンテストでした。入部してから県予選までの約3ヶ月半、1、2年生とともに朗読に取り組みました。演劇をやっていたおかげか、発声の苦労は少なかったのですが、私の読みは山梨特有のアクセントが強く出てしまい、なだらかに読めないので、何度も何度も読み返してとにかく練習を重ねました。結果、なんと県代表に選ばれ全国大会へ出場することになりました。憧れの人へ一步近づいたような気がして、その後の練習にも力が入りました。

全国大会当日は、ここまでつきっきりで指導してくださった先生、応援してくれた後輩や家族、友人に恩返しきれるよう、持ち前の想像力と練習で培ってきたものを出し切ったつもりです。全国の壁は厚く、結果は

準々決勝止まりでしたが、この経験と悔しさをバネに、自分の夢に向かって進んでいきます。放送部での経験は私に大きな自信を与えてくれるものとなりました。



山梨県立山梨高等学校 同窓会事務局 www.yamanashi.kai.ed.jp
〒405-0018 山梨県山梨市上神内川194 TEL0553-22-1621 / FAX0553-22-1623